

宗像市 HOTARU MAP ホタルマップ

ホタルを見に行こう！環境のことを考えよう！



ホタルの里づくり

ホタル、特にゲンジボタルは清流のシンボルです。かつては日本全国、初夏の河川の畔では、淡い光を灯しながら乱舞するホタルの姿が見られました。しかし、護岸工事や都市化、流域人口の増加による水質汚濁などによって、次第にその姿は失われてきました。宗像市においても例外ではありません。

幸いにも宗像市においては「ホタルマップ」に見られるように多くの生息地が残されています。ただ、それは川本・支流の上流部に限られています。私たちはこれらの生息地を守り続けていくだけでなく、さらに流域全体に広げていきたいと思っています。そして、宗像市の大切な財産である美しい川・海・山・田園といった自然を後世に引き継がなければなりません。

宗像市に生息するホタル

		ゲンジボタル	ヘイケボタル	ヒメボタル
成虫の形態	雌			
	雄			
成虫の体長	雌	18mm	10mm	7mm
	雄	15mm	8mm	9mm
腹部発光器(黄白色)				
発光周期(色)		約2秒間隔(黄色)	約1秒間隔(黄色)	約0.5秒間隔(少し赤みを帯びた黄色)
成虫の発生		5月中旬～6月	6月～7月	5月～6月
幼虫の生活		水中生活(8月から翌年3月まで)	水中生活(8月から翌年4月まで)	陸上生活(8月から2年間)

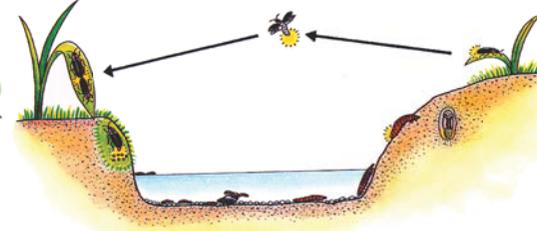
ゲンジボタルの生態

- 産卵: 直径約0.5mmの黄色卵を雌1匹が約500個産みます。
- 幼虫: 気温25℃で約25日で孵化します。カワニナという巻貝を成虫になるまでに約100匹も食べます。
- 成熟幼虫: 6回脱皮して翌年3月に体長約2.5cmの成熟幼虫になります。4月上旬の夜上陸し、川岸を約50cm登り、濡った草むらに約3cmの穴を掘り、だ円形の土ムユをつくります。5月上旬に真白なサナギになり、12日間経って孵化し成虫になります。

ゲンジボタルを繁殖させるには、次の3つの条件が少なくとも必要です。

1. 産卵場所: スギゴケの生えた日陰の水辺が必要です。
2. 幼虫とカワニナの生育場所: 水深約30cmの浅い川で、秒速約30cmの緩やかな流れ、水温は約20℃、水質は弱アルカリ性で、透明な水がよい。
3. サナギになる場所: 川岸の水面より約50cm上部に、濡った柔らかい土が必要です。この3つの条件を整えるために、河川の美化をしなければなりません。そうすることによって、自然環境を回復させることができます。

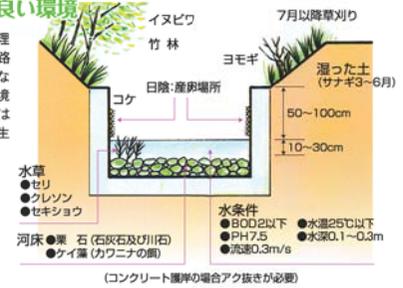
ゲンジボタルの一生



6月	交尾
7月	産卵
8月	孵化
～	水中生活
翌年3月	サナギになる場所(カワニナを食べ6回脱皮)
4月	上陸
5月	サナギ
6月	孵化

ホタルが住み良い環境

自然が豊かな川が理想ですが、都市部の水路においても図のような条件を満たせば、環境にやさしく、ホタルをはじめとする生き物が生息します。



ホタルのサナギ

ホタル初見日: 平成27年5月7日(木)
 調査期間: 平成27年5月中旬から6月中旬
 このホタルマップは、上記の調査期間、市民のみならず調査いただき、通知はがき74通、他、ファックス・手紙の資料を基に作成しました。

発行 宗像市「水と緑の会」
 監修 中石 敬二 (東海大学付属第五高等学校)
 編集 福島 敏彦 (日本アジア国際教育センター)
 調査協力 宗像市民の皆様
 東海大学付属第五高等学校
 サイエンスクラス